

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195003132		
法人名	社会福祉法人 北見有愛会		
事業所名	グループホームライラックス		
所在地	北海道北見市川沿町145番地80		
自己評価作成日	平成30年2月22日	評価結果市町村受理日	平成30年4月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

他のグループホームより、入居者様が少ない分、一人一人の状態把握ができること、行事やお誕生会など楽しんで頂けるよう工夫しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigvosyoCd=0195003132-008
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成30年3月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

学生専用アパートを改装して2ユニットのグループホームとして平成17年開設されましたライラックスは、昨年運営をNP0法人から社会福祉法人に変更しており、系列のグループホームが4ヶ所と成り部会を形成してさらに向上を図っています。身体拘束廃止委員会や高齢者虐待防止委員会を設置して全体で協議しながら情報を共有し、適切な介護ができるよう取り組んでいます。管理者のモットーである、「すべて、小奇麗に、清潔に」を第一に身だしなみから室内外の清掃、整理整頓と自分たちでできる事は全て取り組んでおり、改装した建物ではありますが清潔感に溢れています。その中で利用者は、和やかで笑顔に溢れた暮らしを送っています。職員は利用者の気持ちや家族の気持ちを推し量り、自分なら、と振り返り丁寧な介護を行っています。個人日誌には利用者の言葉や表情が多く記録され、お便りには楽しそうな行事や日常の様子を載せ家族に伝え信頼を得ています。また、管理者は時間があれば気分転換を考える事と職員に利用者と一緒に外出を勧めています。近隣には幼稚園、小学校があり、散歩している時には子供たちからの声掛けもあります。幼稚園の運動会には見物に出かけたり、加入している町内会の焼肉会に利用者、職員が参加して相互交流し楽しい時間を過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者も交えて作成した事業所理念は見やすい場所に掲示し、実践する支援の根幹であることを常に意識できるよう、目標達成に努めている。	昨年運営主体が社会福祉法人に変更に成っており、社会福祉法人の理念と今迄の事業所理念を各ユニットのリビングに掲示しています。パンフレットには事業所理念を掲載し家族にも知らせるよう努めています。	理念は法人や事業所が目指す方向であり、理解を深め実践に繋げていく取り組みを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同じ地区に幼稚園や小学校があるため、日々の散歩でのふれあいや、運動会の見学に行ったりして、地域住民の一員として認識していただいている。	町内会の一員として清掃活動や焼肉会に参加しました。認知症の理解を深める講座を行っています。付近には幼稚園や小学校があり運動会には見物に出かけ応援をしており、散歩の時には言葉を交わして交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会活動やホームの消防避難訓練時に、認知症高齢者の症状や対応など、分かりやすい言葉でお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者・職員・事業所などの近況報告や相談・連絡などを密に行うことで、町内会側から相談や報告など率直な意見の交流に繋がっている。またホーム会議で全職員が内容を確認しながらサービスの維持向上に努めている。	運営推進会議は町内会役員、市担当者、高齢者相談支援センター職員の出席があり利用状況、活動、行事、事故ヒヤリハット報告を行い意見を得て運営に活かしています。利用者家族は出席が少なく今後の課題と成っていますが、会議資料を送付しています。	利用者家族の出席は1回のみと成っています。更なる家族の出席、参加出来る工夫の取り組みに期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居前からの確認や状況報告は勿論のこと、随時相談や確認の連携を図り入居生活が穏やかに過ごせる様取り組んでいる。運営推進会議にも出席していただき、都度報告している。	市担当者とは利用状況や報告書提出で管理者が訪問しており、その都度助言や指導を得て積極的に協力関係を築く様取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の設置、体制を整え、身体拘束禁止の対象となる具体的な行動や不適切ケアについて内部研修や、毎月の会議でも確認しあい、日々の支援の中で全職員が意識できるよう取り組んでいる。	身体拘束廃止に向けては法人内4グループホームで部会を作っておりその中に身体拘束廃止委員会を設立し体制を作り上げています。委員会開催後全体会議で報告と研修に取り組み具体的な事例を挙げながら確認し身体拘束の無い介護に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会の設置、体制を整え、虐待の具体例や防止策について内部研修を行い、毎月の会議でも日常的に不適切ケアについて職員同士で確認し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もおり、研修会などで知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約はご家族の意向を確認しながら、分かりやすい言葉で丁寧な説明をし、理解していただけるよう努めている。解約や改定時も同様に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に会話や表情などから気持ちをくみ取れる様関係作りに努めている。ご家族には来所時に近況報告をし、現在の状態など伝えている。	利用者、家族の意見や要望は日常の会話や面会時に話を伺い運営に反映させています。毎日の様子は年4回程のお便りで写真を多く載せ、知らせています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常の会話の中で運営に関する質問や意見を自由に出し合い、必要に応じて職員の提案を運営者に随時報告し、意見を反映させられるように努めている。	職員の意見や提案は毎月の会議や日常の業務の中で話し合い反映できるよう取り組んでいます。管理者はどんな事でも相談にのり職員の教育に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に合わせた給与内容の見直しを行うと共に、随時有給休暇をとる事ができる様、勤務の調整と環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人がスキルアップできるように、研修会やグループ内での勉強会などに参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関係グループホームとの交流や協力は日常的に行われており、勉強会などの場面では活発な情報交換も行われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に自宅や病院などを訪問し、状態を把握した上で、ご本人からの意見や意向を確認しながら不安感を取り除けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの葛藤や入居してからの不安、要望などについて、話を傾聴し些細なことでも相談していただけるよう伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の希望を伺いながら、分かりやすい言葉で説明し、一緒に考えていく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、時には職員の悩みの相談にのっていたり共に支え合っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や電話にて状態報告を行い、ご家屋と連携をとりつつまた、過度の負担にならない協力を得る事で、ご本人と一緒に支える支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人が、気軽にホームに遊びに来れるような雰囲気作りに努めている。	馴染みの美容室に家族と共に出掛けたり、友人が訪ねて来た時には家族と連携を取りながら、関係が継続する様取り組んでいます。利用者のこれまでの習慣や興味のある事柄を大切にした支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を踏まえ、より良い関係がくづける様配慮している。また職員が会話の橋渡しをすることで孤立しないよう見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	共に支え合った者として出会えたことに感謝して、いつでも気軽に連絡していただけるようお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や生活歴、生活習慣を参考にご本人に確認しながら、希望や意向を把握し見落としがないよう職員同士で話し合い、利用者本位の支援に努めている。	アセスメントや家族からの情報を基に生活歴を把握し、利用者との会話や様子から希望や思いの把握に努め、職員間で共有し、利用者の気持ちを尊重した対応に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報を元に馴染みの生活や経験を生かした活動の支援が行えるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各記録や申し送りを活用し、その日の様子を確認しながら現状把握を一人一人の能力に合った活動ができる様話し合っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議では入居者の状況を確認し合い課題分析を行う中で支援内容が詳細にわかりやすくなっているか、ご本人ご家族の意向に添えているか様々な角度から検討し介護計画を作成している。	利用者、家族の意向を確認し、毎月のケース会議で話し合い、定期的に見直しを行い状況に即した介護計画を作成しています。介護記録の様式を昨年4月に変更し、介護プラン実施の状況や利用者の会話や状況が記され、介護計画作成に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録は時系列に一日の生活の様子やご本人の言葉などありのままを記入し、情報を共有する事でケアの振り返りや介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊時にはご家族に状態説明を充分に行い、困難時には夜間でもお迎えに行くので遠慮せずにご連絡くださるようお願いしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の近隣住民の方に、災害発生時協力支援者になっていただき、入居者が地域において安心して生活が送れるよう取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族と相談しながら、これまで通院していた病院の継続や、状況に合わせ医療機関の追加や、場合によっては往診していただくなど状態に合った支援、かかりつけ医との関係を大切にしている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医への受診を事業所対応で取り組んでいます。利用者の状況に応じ、往診での対応が取られています。看護師資格を持っている職員や法人の看護師が週一度訪問し、健康管理に努め、歯科や皮膚科の往診も利用しながら適切な医療が受けられる様になっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師による、健康チェックを行っている。職員も正確に日々の状況を記録に書いて状況の説明をして、適切なアドバイスも受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供の際に認知症状について、具体的に状態を伝えたり、入院中は状態の把握や今後考えられることなどの相談、情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からかかりつけ医やご本人ご家族と十分に話し合い、ご本人が最期の時まで望むケアを受けられるよう、関わる者全員で共有している。	入居時に重度化した場合における(看取り)指針を説明しています。必要時には更に説明し、医師、訪問看護師を交えた話し合いを行い、家族の希望に沿った対応に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が緊急時対応ができるよう、経験の浅い職員には個別に指導を行っている。また内部、外部研修に随時参加して緊急時対応に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の実践的な避難訓練を行うとともに、近隣住民の方に災害・緊急時協力支援者として災害時には、昼夜を問わず協力してもらえるよう体制を整えている。	年2回の火災避難訓練を夜間想定で実施しています。事業所内はストーブ使用の為、防火管理者が中心となり、安全に注意を払っています。火災以外の災害対策として、ポータブルストーブや食料品の備蓄も行なっています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者に対する尊敬の念を持ちながら、慣れあいの関係とならないよう研修を行い、個々の人格を尊重した対応を心がけている。	利用者の人格や尊厳を尊重し、言葉掛けや対応も、親しい中にも慣れ合いにならない様配慮しています。居室に入室する時の対応や排泄介助時にはドアを閉める等、基本的な事を守る様に心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望や意見を重視しそれぞれの興味や話題の提供、選択肢を用いるなど混乱せずに自己決定ができるよう支援していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活習慣やペースに合った日常の支援に配慮し、その人らしい暮らしを安心して過ごしていただけるよう柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を優先する事でおしゃれや身だしなみに楽しみが持てるよう好みの美容室や理髪店への支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューや食材の話から、好みを聞いたり食事の思い出を話しながら準備をしたり、またおしぼりをたたんだり、食器を拭いていただいたりして、満足感を感じていただいている。	副食は法人からの配食と成っており、ご飯とみそ汁は事業所内で用意しています。利用者は茶わんふきやおしぼりたみ等、出来る事に取り組みながら食事を楽しんでいます。外出を兼ねて、外食を楽しむ取り組みも行なっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は水分量を把握し、食欲低下が見られる際には好みの物や摂取しやすい物を用意したり、状態によっては主治医に相談するなど個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	生活習慣や状態に合わせた口腔ケアを行い、異常が見られる場合には歯科往診など個別に対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、さりげない声かけ誘導や介助の継続をすることで、ADLや自尊心の維持・向上につながるよう個別に対応している。	排泄記録を参考に、利用者の様子やパターンを把握し、さりげない誘導で排泄支援に努めています。夜間はポータブルトイレを利用したり、希望で同性介助等、柔軟な支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の活用と水分・食事摂取状況を把握し、かかりつけ医の指示に基づき、運動や腹部マッサージ、便秘薬の調整を行い便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意思を尊重し、気分がのらない時には無理強いをせず、日時を変更したり職員交代するなど柔軟に対応している。	週に2～3回は入浴出来る様に支援しています。同性介助や拒否のある利用者には無理強いをせず、声掛けの工夫やタイミングを図りながら、気持ちよく入浴出来る様に支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、眠れない時には興奮しない程度に職員と会話するなど、不安感を取り除くなどの工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状から薬の確認と整理をそれぞれに行うことにより、副作用や用法・容量を理解し、症状に変化がある場合には速やかに医療機関へ報告できるよう状態把握に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や日常会話動作などから、お盆拭きや食器拭き、タオルたたみなどそれぞれに合った役割や、散歩や行事など楽しみが見つけられるよう取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望や状態に合わせて、買い物や散歩は日常的に行っており、菊祭りなど季節の行事も可能な限り出かけられるよう支援している。	管理者は、利用者との関わり合いを多く持ち、五感の刺激が得られるためにも多く外に出る様にと職員に指導しており、季節ごとの外出やドライブ、近隣の幼稚園の運動会、日常的に散歩に出掛ける等、積極的に外出支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望もあり、ほとんどの入居者はホームで管理しているが、場合によってはご家族と相談の上、一部本人が所持されている事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはセッティングする事で入居者自らが話したい相手と気軽に電話ができるように準備するなど柔軟に対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	プランターや鉢植えで花を育てたり、季節に応じた装飾などを行うことで生活館を生かした居心地のよい空間となるよう心がけている。また換気や加湿器を使用するなどして室温調整を行い、出来る限りの配慮を行っている。	以前学生アパートだった建物を改装した建物ですが、毎日掃除を行い、事業所内は清潔に保たれています。廊下には利用者の作品や行事の写真、リビングには手作りカレンダーやぬいぐるみ、食器棚等が適度に配され、温湿度も調節し、居心地の良い空間と成っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に共用スペースを利用され、気の合った入居者同士で楽しく過ごされたり、また居室で過ごされる際には、一人の時間も大切にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや馴染みの品を持ち込んでいただくことにより、環境の変化による不安やダメージを最小限に抑え、居心地よく過ごされるよう支援している。	居室にはクローゼットが設置されています。FFストーブを使用しており、近くには物を置かない様にテーブルで目印をつける等、工夫しています。利用者は、テレビや筆筒、仏壇等馴染みの物を持ち込み、自分らしく落ち着いた暮らしが出来る様に成っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態や状況に合わせて、さりげない声かけや見守りや誘導と、環境作りに配慮し、できる限り自立した生活が送れるよう支援している。		